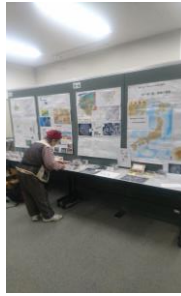


六甲山の鉱物たち

舟木冴子 (大阪シニア自然大学 OB 会 鉱物クラブ所属)



はじめに

鉱物とは、天然に産する均質な固体物質で、ほぼ一定の化学組成と一定の原子配列を持つ、無機質な過程で生成されたものと定義されます（「検索入門 鉱物・岩石」保育社）。

私は、2004年4月から現在に至るまで、「六甲山地のシダ植物の分布」を調査しておりますが、目線が低いシダ植物の観察は、当然ながら石ころも目に入ります。展示の試料は、東六甲でたまたま出合った石ころたちです。

本文

六甲山地は兵庫県南東部に位置し、六甲山系と丹生山系からなります。最高峰（931.25m）を初め山頂は幾つもあり「六甲連山」ともよばれます。東六甲には六甲花崗岩ペグマタイトが分布し、地学研究第43巻1994年9月「六甲船坂鉱山産鉱物の結晶形態」（高岡公昭・白神正夫）では、鉄マンガン重石・螢石・藍銅鉱・青鉛鉱・トパズが報告されています。また、昭和8年の武庫郡良元村、元同村助役和田甚九郎氏の報告に輝水鉛鉱の記載が見られますが、試料の水鉛鉛鉱(wulfenite)については言及されておりません。今後の調査が待たれるところです。

結果と考察

鉱物の塊である「石ころ」は今や稀少種、田舎道でさえなかなか見つけられません。しかし、山径に入ると石だらけです。石の殆どは地球の内部で生まれ、長い道程、年月を経て作られたものです。試料は、石英・トパズ・黄銅鉱・鉄重石・水鉛鉛鉱・輝水鉛鉱・緑柱石・黒雲母・螢石・アプライトやペグマタイト等ですが、耳を傾ければ、これら試料たちは「生い立ち」を語ってくれる筈。鉱物を知るということは、地域の地質や地層を知るということでもあり、その大地がどうして出来たかということにも繋がります。周りの自然を楽しみながら石と触れ合い探求心を磨きましょう！！石ころは、きっとあなたの宝物になるでしょう。